坂本龍馬手帳摘要

坂本龍馬

青空文庫

壬丑歳　　慶応元年

四月廿五日、坂ヲ発ス。

五月朔、甕府ニ至ル。

五月十六日、鹿府ヲ発ス。時午(ひる)ヲ過グ、鹿児ヨリ四里、伊集院四里。

市来港止宿四リ、川内(センダイ)宿二リ。

十七日

川内川あり、海辺迄三里計ト云。然ニ海船ヲ入ル、水深シ、大川泊二リ。

阿久根宿二リ。

十八日

野田二リ半。

此辺野田島町皆地巻士也、泉米津までの間平原然ニ水少シ物多シ、ハゼノ木多シ。

泉米津

右下直右衛門と云もの右町役人也、部当(ベットヲ)ト云旅人人馬断所々の世話ヲナスものなり、後日野間原泉口番所ニ至リテ直右衛門ニ書テ与ヘバ、必ズ急ギ罷出ル筈ナリ。

十九日、朝肥後ニ入ル。

右泉口米津※(より)乗船。

廿三日宰府ニ至ル。渋谷彦助ニ会ス。
廿四日伝法ニ謁ス。
小田村（素太郎）ニ会ス。
廿七日又謁ス。
廿八日宰府ヲ発ス。
ニり山家宿止宿三リ。
廿九日
三リ内野、三リ。
飯塚、五リ大川アリ。
木屋之瀬宿止リニリ。
朔日
黒崎平町乗船、赤間間ニ至ル、西の端町入江和作ヲ尋、但小田村ノ示ニヨル。城ノ腰綿屋弥兵衛ニ宿ス。但シ官ノ差宿也。
二日
曽病アリ、依而養生ノ為、宿ヲ外浜町村屋清蔵ニ取、□□医ヲ撰（えら）ンデ長府かなや町多原某を求、不日ニ平癒スト、期一七日トス。
四日、此日一夷船アリ、馬関ニ泊ス。

五日、長府時田重次郎馬上　来ル。
六日
桂小五郎山口　来ル。
七日
船腹ニ横一白色ノ蛇腹アリ、砲門ノ如ク見ユル。十日英船大サ順動丸ノ如シ。
スコールステヱン二ツ
ラツト
ラアトルカストの色黄色ニ見ユル。
西大寺ノ前西南ノ地方ニヨリ泊ス、売買船也。然ニ上陸ノ者四人アリ、皆剣ヲ帯ビ士官ト見ユル。
夜ニ入、椋梨伝八郎来ル。
（同巻ヲ倒ニシテ巻首ヨリノ中程ニ突然ト左ノ数行アリ）
廿三日　将軍坂ニ下ル〇廿三日ハ乙丑ノ九月ナリ校正者識
廿四日夜　大坂ニ下ル。
廿五日
廿六日　兵庫
廿七日

廿八日　予州青島泊。
廿九日　上関
十月
三宮　市
別巻
丙寅正月大　　慶応二年
十日　下ヲ発。
十七日　神戸
十八日　大坂
十九日　伏見
廿日　二本松
廿二日　木圭、小、西、三氏会。
廿三日夜　伏水ニ下ル二時過ル頃――
廿四日朝　邸ニ入ル。
卅日　夜京邸ニ入ル。
二月小
廿九日夜　伏水邸ニ下リ乗船。

三月朔日　大坂
四日　三邦丸ニ乗組。
五日　朝出帆ス。
六日夕　下ノ関ニ泊ス。
八日　長崎ニ至ル。
十日　鹿児府ニ至ル。
十六日　大隅霧島山ノ方、温泉ニ行、鹿児ノ東北七里計ノ地、浜ノ市ニ至ル。
　但し以舟ス、夫ヨリ日高山に至ル。
十七日　シヲヒタシ温泉ニ至ル。
廿八日　霧島山ニ発ス。温泉所ニ泊ス。
廿九日　霧島山山上ニ至ル、夫ヨリ霧島ノ宮ニ宿ス。
卅日　温泉所ニ帰リ。
四月大　シヲヒタシ温泉所ニ帰ル。
八日　日当山ニ帰ル。
十一日　浜ノ市ニ帰ル。
十二日　浜市ヨリ上舟、鹿児ニ帰ル。
十四日　改正所ニ至ル。

五月朔日　桜島丸来ル。
廿九日
　四両三歩　金
右寺内氏ヨリ借用セリ。
又弐両寺内ヨリ、右短刀合口コシラヘ　并（ならびにとぎ）研。
備前兼元無銘刀研代。
　合テ三両二朱余払フ。
六月朔　桜艦ニ乗組。
　是ヨリ先キ廿九日両氏ヲ問、時ニ西（いわく）曰、
近日西客来ル、其時件ニ付テハ曽テ木桂ヨリ来書アリ、其儀ニ曰ク、両国論ヲ合（あわせ）テ云々ト、
故ニ此国ニ来ラバ先ヅ其事件云々ヲ委曲、使ヲ以達可ク、然ラザレバ其西客ニ一名ヲ付て送
ルベシト。
船買主与三郎
請人　小曽根英四郎
　周旋　多賀ナリ。
廿二日　プロイセン商人チョルチーニ面会ス。船買入及商法ヲ談ズ。
廿三日　船見分此日夷人ヨリモ奉行ヘ引合邸留守居ヘ談ズ。

廿四日　朝邸留守居え行、但留守居ハ汾陽五郎右門也。
廿五日　朝五時頃呉半三郎亜商と取替ユル証文案紙成ル。
六日
廿七日
廿八日　船受取。
三両二歩也。
坂本龍馬　寺内新右門　多賀松太郎　菅野覚兵衛　白峯駿馬　陸奥元次郎　関　雄之助
右ハ当月何月分慥ニ頂戴仕候。以上。
関　雄之助印
寅何月何日
印鑑〇関雄之助
右ハ印鑑を以て坂、寺、多賀、菅、白、陸、関七人之分、毎月三日壱人当三両弐歩宛頂戴仕候。
以上。
寅十月三日
大洲イロハ丸
船将　国島六左衛門
〇風薬　カミ（ツ）ルレ大　接花中　※砂トヲシヤ

〔倒ニシテ巻首ヨリ如左二冊トモ参考ニ用ナキ一時ノ心覚様ノ者多シ。此ニ其一類ヲ写シテ望蜀ノ念ナカラシム。〕

貞観政要　大宗曰　忠良有異乎。魏徴曰、良臣使身獲美名君受顕号子孫伝世云々。

斉明天皇六年　始造漏刻（はじめてろうこくをつくる）。

卒報猶如急変

子非賤虚名貴実田破浮淫督耕戦明賞罰営富強。

○術数有余（あまりありて）而至誠不足、

上杉氏之身ヲ亡ス所以ナリ。

丙寅五月二日ワイルウエフ破船五島塩屋崎ニ於テ死者十二人。

船将　黒木小太郎

水夫頭　虎吉

水夫　熊吉

浅吉

徳次郎

仲次郎

勇蔵

常吉

貞次郎
加蔵
〆十二人

生残者三人
下等士官　浦田運次郎
水夫　一太郎
　　三平
〆三人

右死セル者朝暁ヨリ日出ニ至リテツクス

―　浦田運次郎
―　水夫一太郎
か―島児ニ　幾太郎
残―ス分　友吉
―　安吉
―　火焚　新助

（以上草々ノ略記都(すべ)テ後日結写文飾ヲ加ル者ニ勝リ、其真卒ナル当日ノ真ヲ見ルニ足ル故ニ写

置

土方直行記）

青空文庫情報

底本：「龍馬の手紙」宮地佐一郎、講談社学術文庫、講談社
2003（平成15）年12月10日第1刷発行
2008（平成20）年9月19日第7刷発行
※丸括弧付きの語句は、底本編集時に付け加えられたものです。
入力：Yanajin33
校正：Hanren
2010年11月12日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

坂本龍馬手帳摘要

坂本龍馬

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　https://aohelp.club/
BiliBili　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/